

製品名: CaMKII α / δ (リン酸化 Thr286) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04355

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	CAMK2A/CAMK2D CAMK2A; CAMKA; KIAA0968; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit alpha; CaM kinase II subunit alpha; CaMK-II subunit alpha; CAMK2D; CAMKD; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase type II subunit delta; CaM kinase II
別名	
遺伝子 ID	815/817
SwissProt ID	Q9UQM7/Q13557
免疫原	抗血清は、Thr286 のリン酸化部位周辺のヒト CaMK2 由来の合成ペプチドに対して産生された。 アミノ酸範囲: 256-305

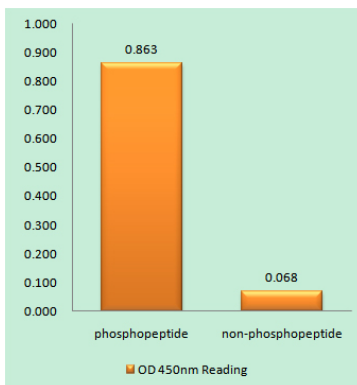
背景

この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリー、および Ca(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼサブファミリーに属する。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸シナプス可塑性の様々な側面において極めて重要である。このカルシウムカルモジュリン依存性プロテインキナーゼは、 α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。この遺伝子によってコードされる α 鎖は、海馬の長期増強 (LTP) および空間学習に必須である。このタンパク質は、カルシウムカルモジュリン (CaM) 依存性活性に加えて、自己リン酸化を受けることで CaM 非依存性活性を示す。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが同定されている。[RefSeq 提供、2008年11月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節: Thr-286の自己リン酸化により、キナーゼはカルモジュリン依存状態からカルモジュリン非依存状態へと切り替わります。、機能: CaM キナーゼ II (CAMK2) は、中枢神経系における主要なキナーゼであり、長期増強および神経伝達物質放出に関与していると考えられています。興奮性シナプスにおける NMDAR シグナル伝達複合体のメンバーであり、AMPA の NMDAR 依存的増強およびシナプス可塑性を制御すると考えられています。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CaMK サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在: シナプス後脂質ラフト。、サブユニット: CAMK2 は、 α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。これらの異なるアイソフォームは、8~12個のサブユニットからなるホモまたはヘテロ多量体ホロ酵素に集合する。BAALC、MPDZ、SYN1、CAMK2N2、SYNGAP1と相互作用する。、

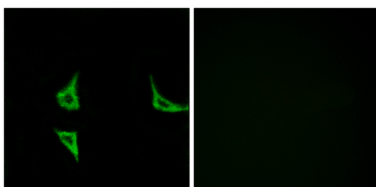
研究分野

ErbB_HER;カルシウム;卵母細胞減数分裂;WNT;WNT-T細胞長期増強;神経栄養因子;嗅覚伝達;GnRH;メラニン形成;神経膠腫;

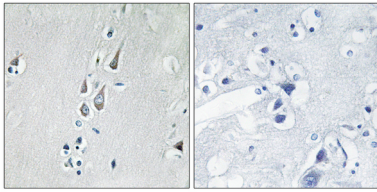
画像データ



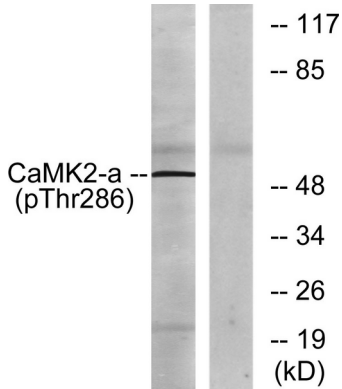
CaMK2 (リン酸化 Thr286) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



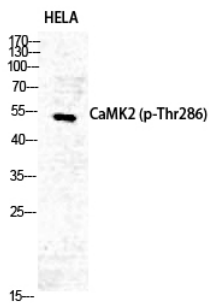
CaMK2 (リン酸化 Thr286) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



CaMK2 (リン酸化 Thr286) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。
右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



K562 細胞ライセートの CaMK2 (リン酸化 Thr286) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



HELA 細胞のリン酸化 CaMKII α/δ (T286) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いたウェスタンブロット解析